



十日町市の鉢集落の民家に保管されてきたのこぎりや仕事着。3日から公開される。同市真田甲

## のこぎり、仕事着、わら細工… 数百点

# 木びき道具「最後の展示」

十日町、きょうから 民家が老朽化

十日町市の山間部、鉢と呼ばれる集落の民家に保管されてきた、さまざまな形ののこぎりや仕事着、農機具、わら細工など数百点上る民俗史料の展示会「雪国に生きて」が3〜7日に開かれる。民家は老朽化が進み、史料を整理してきた市民は「実物を展示するのは今回が最後」として、来場を呼び掛けている。

民家の持ち主、尾身ミノ

さん(91)は1930年、同所に生まれた。50年に木の伐採や製材を行う木びき職人の国政さんと結婚したが、国政さんは63年に作業事故で亡くなった。尾身さんは農業や小学校の給食調理員をしながら3人の子どもを育てた。

尾身さんは2002年、自宅に民俗史料の展示室を作ろうと2階を改修した。だが、05年4月に病気で体

が不自由となり、その後、新潟市の施設に入所した。史料は同市姿甲の門脇洋子さん(70)らがボランティアで台帳を作ったり、希望者に公開したりしてきた。中には集落の女性が冬季、出稼ぎ中の夫宛てに暮らしぶりを綴った文集も含まれている。

門脇さんは「庶民が日常生活で使っていた品々を長年保管してきたことはとても意義深い。今後はウエブで公開を続けていきたい」と話している。

尾身さん宅の住所は同市真田甲2226の1(鉢の石仏)駐車場の利用が可能)。入場無料。開館時間は午前11時から午後4時まで(最終日は午後3時終了)。問い合わせは門脇さん、090(2312)9685。